



■ キャリア教育を実践するときには

就学前

- ◇ 幼児期における教育は、幼児が主体性を十分に発揮する生活や遊びが展開できるよう、計画的に環境を構成し、一人一人に応じた援助を行うことが重要です。
- ◇ 一人一人を生かした集団を形成して、人とかかわる力を育てることが重要です。
- ◇ 集団生活の中で自己を発揮し、保育者や他の幼児に認められる体験を通じて自信をもって行動できるようにすることが大切です。

小学校

- ◇ 小学校教育のあらゆる場面には、キャリア教育として活用できる多くの教育活動があります。だからと言って「何をしてもキャリア教育」と言うことではありません。
- ◇ 全教員がキャリア教育の視点をもって、それぞれの教育活動の中にあるキャリア教育の「断片」をつなぎ、体系的・系統的な教育活動として実現させる意識的な取り組みを共有しましょう。
- ◇ 6年間にわたる小学校では、特に、発達段階に応じた指導が求められます。
- ◇ 校内組織を整備し、PDCAサイクルを確立しましょう。

中学校

- ◇ 自校におけるこれまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点でとらえ直すことが重要です。
- ◇ 職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の実現に迫ることが中心的な課題となります。
- ◇ 教育活動全体における体験活動の位置付けを明確にしましょう。
- ◇ 事前・事後指導を工夫し、各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動とのつながりをもたせましょう。

高等学校

- ◇ 自分の担当教科において、社会的・職業的自立のためにどのような力を育てなければならないのか問い直しましょう。
- ◇ 学校の特色や生徒の実態に即して、自校の生徒に身に付けさせたい力を明確にし、既に行っているキャリア教育の「断片」を関連付けましょう。
- ◇ 体験による学びの喜びを教室での学習に結び付けましょう。
- ◇ 学科の特性を十分に生かし、自校の生徒にどのような力を付けさせることができるのか、改めて見直しましょう。

◇ キャリア教育への誤解 ◇

- ◇ 平成17年度から全国的にはじまった「キャリア・スタート・ウィーク」がキャリア教育の中核的な事業と捉えられ、勤労観・職業観の育成にのみ焦点が絞られ、職場体験活動をしたことをもってキャリア教育を行ったものとみなす学校もありました。
- ◇ キャリア教育がフリーターや若年無業者の増加を食い止めるための「対策」として誤解される傾向が生じました。この誤解が、小学校や中学校、進学校と呼ばれる高等学校におけるキャリア教育の推進が遅れた一因と考えられます。
- ◇ キャリア教育を推進するに当たり、「新たな取り組みをしなければならない」というのは誤解です。今まで蓄積した取り組みを生かしながら、さらなる実践のバージョンアップを図るチャンスと考えましょう。